バンコクの風

ลมจากกรุงเทพฯ

日本学術振興会バンコク研究連絡センター
活動報告（2013 年 7 月～9 月）

【JSPS-NRCT セミナー（8/29 実施）にて参加者全員との記念撮影】

センター長挨拶

JSPS バンコク研究連絡センターの活動報告「バンコクの風」（2013年7－9月分）をお届けします。今期特に8月の活動の特色を表現するなら、「協働」もしくは「連携」という言葉が的（まと）を得ているように思います。

100万人以上を動員する科学技術省（MOST）と国立科学博物館が主催するタイ科学技術展には、当センターは毎年ブースを出展してきましたが、今年は、日本大使館や日本学生支援機構（JASSO）と相談し、バンコクにオフィスを構える日本の大学の紹介、また展示の趣旨に賛同し日本から送られてきた多くの大学のポスターも同時に展示しました。日本の大学との連携事業の一つといえるでしょう。

タイ学術会議（NRCT）並びにタイ JSPS タイ同窓会（JAAT）との合同セミナーも毎年8月の恒例事業ですが、今年は両国がともに抱える社会問題（少子高齢化、福祉、環境問題、インフラ整備）をテーマに選び実施しました。それぞれのテーマは深刻な社会問題ですが、日本における取組み（グッドプラクティス）を紹介することで、タイの研究者への刺激になったと NRCT 並びに JAAT からの反応でした。カウンターパートとの協働の重要性を認識したイベントとなりました。

今年7月、タイ、ベトナム、インドネシアからの訪日に際しての入国ビザが期限付きですが必要なくなり、タイ人に関しては訪日者数が昨年比倍増したとの報告がありました（日本政府観光局（JNTO）バンコク事務所）。日本への関心は、これからも質、量ともに増えていくことでしょう。学術・研究分野での交流、連携もそれに負けないよう増やしていきたいものです。

2013 年 10 月吉日

JSPS バンコク研究連絡センター長　山下邦明

主な活動と目次

7 月

5 日	2013 年度第 3 回タイ国学術会議（NRCT）訪問	P. 3
11 日	チェンマイ大学を表敬訪問及び JSPS 事業説明会を実施	P. 3
12 日	東海大学 ASEAN オフィスを訪問	P. 4
17 日	京都大学「大学の世界展開力強化事業プロジェクト「「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築」の第 1 回 KU-AUN 運営会議に出席	P. 4
17 日	杉山大介　九州大学病院　ARO　次世代医療センターネットワーク調整室長の来訪	P. 4

8 月

5 日	明治大学 ASEAN センター開所式に出席	P. 5
6 日	柿原健一郎理研シンガポール事務所長の来訪	P. 5
7 日	飯田和人明治大学教務担当理事の来訪	P. 5
6 日- 21 日	タイ科学技術展 2013 への出展	P. 6
8 日	湊隆幸東京大学准教授の来訪	P. 7
9 日	福井浩一富山大学研究振興部国際交流グループ長の来訪	P. 7
23 日	東海大学 ASEAN オフィス開所式に出席	P. 7
23 日	Thailand Research Expo 2013 で JSPS タイ同窓会（JAAT）セミナーを共催	P. 8
25 日	Thailand Research Expo 2013 で JSPS-NRCT セミナーを主催	P. 9
26 日	ドゥアン・プラティープ財団（DPF）を訪問	P. 8
27 日	大分大学副学長の来訪	P. 10
28 日	京都大学農学研究科主催「だしイベント」に参加	P. 10

9 月

1 日	日本学生支援機構（JASSO）主催日本留学フェアに出展	P. 10
2 日	日本学生支援機構（JASSO）遠藤理事長の来訪	P. 11
2 日	磯田文雄東京大学理事の来訪	P. 11
2 日	AUN/SEED-Net 事務局及び JASSO と合同で国際連携セミナーの実施	P. 11
6 日	元 JSPS 国際協力員の来訪	P. 12
10 日	山口大学職員の来訪	P. 12
11 日	ドゥアン・プラティープ財団（DPF）を再訪問	P. 12
14 日	バングラデシュでの事業説明会及び JSPS バングラデシュ同窓会理事会の実施	P. 13
17 日	チュラロンコン大学理学部 Thanawat Jarupongsakul 教授の来訪	P. 13
17 日	立教大学阿部治教授の来訪	P. 14
23 日	豊橋技術科学大学、長岡技術科大学、NSTDA シンポジウムに出席	P. 14
23 日	日本政府・タイ政府奨学金留学生の壮行会に出席	P. 14

コラム#1　ダイスケさんのダイ好きアジア　P. 15

■2013 年度第 3 回タイ国学術会議（NRCT）訪問 （7月5日）

2013 年度第 3 回目の NRCT への訪問となった今回の会合では、8 月に実施する Thailand Research Expo の具体的な業務打ち合わせ、またチェンマイ大学での事業説明会の協力を依頼しました。JSPS-NRCT セミナーにかかるプログラムを最終決定し、また、チェンマイ大学での事業紹介セミナーについては、NRCT より協力頂くこととなりました。

■チェンマイ大学を表敬訪問及び JSPS 事業説明会を実施 （7月11日）

Dr. Avorn Opatratanakit 学長補佐（教育・研究担当）を表敬訪問し、JSPS の事業概要を説明しました。JSPS としてはタイ第二の都市でありタイ北部の中心であるチェンマイを重要視しており、少なくとも年に一回は定期的にチェンマイ大学で事業説明会を実施することを提案しました。

チェンマイ大学としても、チェンマイ近辺の大学からも参加者を招へいし、より規模を大きくして実施することや、科学セミナーの実施も含めて検討したいとのことでした。来年度は、年度当初に実施する予定です。

【左からセンター長、、Avorn 学長補佐、Chartchai 准教授、Thammanoon 研究推進センター部長】

表敬訪問の後、JSPS の事業説明会を実施しました。Aborn 学長補佐の挨拶の後、センター長が JSPS の概要説明を、副センター長が JSPS 国際交流プログラムについて説明を行いました。

また、JSPS 論文博士取得支援事業で論文博士を取得された理学部の Saisamorn Lumyong 教授、医学部の Luksana Makonkawkeyoon 准教授から日本での研究の経験談について、発表頂きました。

今回のセミナーは、チェンマイ大学及び NRCT の多大なる協力を得て、33 名の参加者があり、特に二国間交流事業に関して日本の共同研究者との申請方法等、活発な意見交換が行われました。

セミナー修了後、在チェンマイ日本国総領事館藤井昭彦総領事、近藤和弘副領事を訪問し、JSPS の事業を紹介するとともに、今後チェンマイ及びタイ北部における JSPS の事業実施にかかる協力を依頼しました。

当センターは、今後もタイ北部において継続的に連携を推進していく予定です。

■東海大学 ASEAN オフィスを訪問（7月12日）

今回は、来月に実施される科学技術展についての打ち合わせを東海大学の富田紘央助教と実施しました。東海大学アジア事務所はバンコク市内の当センターから程近いビルにオープンしたばかりで、我々が二番目の訪問客となりました。

8 月 23 日にはオフィス開所式が開催され、センターからも副センター長が出席させて頂きました。近所にオフィスが開設されたこともあり、今後も連携を推進していく予定です。

■京都大学「大学の世界展開力強化事業プロジェクト」「「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築」の第 1 回 KU-AUN 運営会議に出席（7月17日）

本会議は、本事業の実施担当者が集合して開催された会議であり、京都大学及びインドネシア・バンドン工科大学、ガジャマダ大学、マレーシア・マラヤ大学、シンガポール・シンガポール国立大学、タイ・チュラロンコン大学及び ASEAN 大学連合（AUN）事務局が参加しました。

京都大学及び参加した各大学より、学生交流協定に基づく相互授業料免除、各大学院での教育システムの整備、共通科目の設定、単位互換制度の整備、学生の募集にかかる進捗状況の報告がありました。

本会議では、プログラム参加学生のメンバーシップや履修カリキュラム等を承認することを本事業の運営委員会のタスクとすることが決定され、非常にプラクティカルな会議となりました。

■九州大学病院　杉山大介 ARO 次世代医療センターネットワーク調整室長の来訪（7月17日）

九州大学病院　杉山大介 ARO 次世代医療センターネットワーク調整室長（特任准教授）、また同大学所属日本学術振興会特別研究員の井上朋子さんが当センターを来訪されました。

杉山准教授は、今回二国間交流事業の推進のため、マヒドン大学を訪問された折に、当センターを訪問されました。

杉山准教授は、これまで JSPS 国際交流事業にも何度も採択されています。今後は、より大きい研究資金の獲得を目指しているとのことですが、国際的な共同研究の実施には、とにかく時間とノウハウが必要であることを強調されておられました。タイとの二国間共同事業を今年度から開始されたとのことで、今後とも様々な意見交換をさせていただく所存です。

■明治大学 ASEAN センター開所式に出席（8月5日）

明治大学は、バンコク市内中心部にあるシーナカリンウィロート大学内に ASEAN センターを開設しました。2012 年度に採択された大学の世界展開力強化事業～ASEAN 諸国等との大学間交流形成支援～「日本 ASEAN リテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム」の拠点として、日本及び ASEAN の学生に学びの場を提供する予定です。

開所式では日高明治大学理事長が開式の辞、続いてシーナカリンウィロート大学国際交流担当理事、佐藤在タイ日本国大使が祝辞を述べました。

続いて実施されたレセプションでは、福宮賢一学長が挨拶、Krisada Visavateeranon 泰日工業大学学長が乾杯の音頭を取り、総勢 100 名の参加があった式典が華やかに実施されました。

■柿原健一郎理研シンガポール事務所長の来訪（8月7日）

今回のタイへの来訪はタイ国立科学技術開発庁(NSTDA)、マヒドン大学を訪問し、理研とのワークショップの実施、理研での研究者受け入れ等を通じての NSTDA の若手研究者の育成について議論を行うとのことでした。

当センターとしては、JSPS のプログラムの紹介を行うとともに、訪問先の NSTDA で JSPS の事業を紹介いただくこととなりました。理研に招聘するにあたっても何らかのグラントの存在は不可欠であり、JSPS のプログラムをご利用いただくと良いかと考えています。

■飯田和人明治大学教務担当理事の来訪（8月7日）

【左から江藤教授、櫛方課長、向殿校友会会長、センター長、飯田理事、山本所長、大六野教授、福田所長】

明治大学の飯田教務担当理事、大六野政経学部長、向殿校友会会長、江藤教授、櫛方経営企画部課長がご来訪されました。5 日に開催された明治大学 ASEAN センターの開所式並びにレセプションへの出席に対する返礼ということで、センター長のほか日本学生支援機構（JASSO）山本所長、国際交流基金（JF） 福田所長も同席してもらい、懇談しました。

世界展開力強化事業に採択された諸大学の中でも、明治大学は特にタイをはじめアジアの大学との学生・教員交流に力を入れている大学で、懇談の中でも、今後の展開についてお話し頂きました。

■タイ科学技術展2013への出展（8月6日～21日）

当科学技術展は、タイ国民の科学技術への興味・関心の向上及び教育振興等を趣旨として、バンコク国際貿易展示場（BITEC）にてタイ科学技術省（MOST: Ministry of Science and Technology）及び国立博物館（NSM: National Science Museum）が主催しているものです。当センターも 2006 年以降、例年ブース展示に参加し、JSPS の研究助成事業や在タイの日本の大学の事務所などを紹介しています。

今年度は、在タイ日本国大使館の主導、日本学生支援機構（JASSO）との共同・連携により、「大学連携ブース」を設置することとなりました。当センターは、タイに事務所を設置する日本の大学等教育関係機関の参加を取りまとめ、当該機関の紹介ポスターの掲示及び資料配布等を行い、JASSO は日本留学フェア（タイ）出展機関を対象とした日本留学に関する資料掲示等を実施しました。

今回の出展では 21 校のポスター掲示、12 校より資料の提供をいただきました。また、サーミットタワー10 階にある日本政府観光局（JNTO）及び国際交流基金（JF）からも資料を提供頂き、合わせて資料配布を行いました

ポスター及び資料を提供頂いた大学は下記の通りです。

青山学院大学、大阪大学、関西大学、京都大学、京都工芸繊維大学、九州大学、静岡大学、中央大学、デジタルハリウッド大学、東海大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、東京農工大学、福井工業大学、福岡工業大学、文化学園大学、三重大学、明治大学、立命館アジア太平洋大学、早稲田大学（以上、五十音順）

また、JASSO を通じて日本留学に関する資料提供頂いた機関は下記の通りです。

秋田大学、大阪大学、学習院女子大学、鹿児島大学、近畿大学、慶應義塾大学、JET 日本語学校、静岡大学、新宿日本語学校、中央大学、福井工業大学、東海大学、東京国際大学、東京理科大学、北海道大学、MANABI 外語学院（以上、五十音順）

その他日本からは、JAXA（宇宙航空研究開発機構）、JIRCUS（国際農林水産業研究センター）、NICT（情報通信研究機構）、RESTEC（リモートセンシング技術センター）、東海大学及びキングモンクット工科大学ラカバン、北海道大学、地球観測衛星コンソーシアム（住友商事、NEC、三菱電機、パスコの4社が、日本政府の支援の下、コンソーシアムを組成し、タイ政府に必要な情報を提供するなど、タイの宇宙分野での活動を支援しています）が出展を行いました。

【オールジャパンでの記念撮影】

■東京大学湊隆幸准教授の来訪（8月8日）

東京大学大学院新領域創成科学研究科湊隆幸准教授がキングモンクット工科大学トンブリ工学部の Santi Charoenpornpattana 助教、Pitch Sutheerawatthana 助教とともに当センターを訪問されました。

今回の訪問目的は、JSPS のプログラムを通じてのタイとの共同研究について意見交換を実施しました。また、東大の海外分校の設立について、設立に関する前向きな意見をお持ちであり、現状のタイにおける日本の大学の状況について情報提供と意見交換を行いました。

【左から Pitch 助教、湊准教授、Santi 助教、センター長】

■福井浩一富山大学研究振興部国際交流グループ長の来訪（8月9日）

福井グループ長は 1996～98 年に第三代当センター副センター長を務められたとのことです。また、東大北京事務所副所長として、東大北京事務所立ち上げのために 3 年間北京でも勤務されていたとのことで、国際経験が大変豊富であり、当時のバンコクセンターの様子のみならず、東大北京事務所開設にかかる経験や運営方法、また現在の大学の国際交流に関する情報提供を頂きました。

福井グループ長が強調されていたのが、ネットワークの重要性で、今回はプライベートの来訪であるにもかかわらず、当センターのみならずチュラロンコン大学や教育省を訪問されるとのことです。バンコクセンターには多くの方の来訪がありますが、一期一会を大切にしつつ、協力を行っていく所存です。

【左から副センター長、福井グループ長、JASSO 山本所長】

■東海大学 ASEAN オフィス開所式に出席（8月23日）

バンコク市内グランド･ミレニアムホテルにて、東海大学 ASEAN オフィス開所式が開催され、当センターより副センター長が参加しました。

当日は、髙野二郎東海大学学長、東海大学の協定校であり、ASEAN オフィス開設前に学内にオフィスを設置していたモンクット王ラカバンエ科大学（KMITL）タウィン･プンマ学長、また佐藤重和特命全権大使による来賓挨拶も実施され、タイにおける東海大学の活動の深さを知ることが出来ました。

既に東海大学 ASEAN オフィスには当センターより訪問させて頂き、常駐されている富田紘央助教とはタイ科学技術展さまざまなところで連携させて頂いておりますが、今後も連携を推進させて頂く所存です。

■Thailand Research Expo 2013 で JSPS タイ同窓会（JAAT）セミナーを共催 （8月23日）

バンコク国際会議場にて開催中の Thailand Research Expo 2013 の中で実施された JSPS タイ同窓会（JAAT: JSPS Alumni Association of Thailand）による学術セミナー「Academic Initiatives' on Thailand Transport Infrastructure Development」を同窓会と共催しました。本セミナーは、タイ学術会議の協力の下、JSPSタイ同窓会が主催し、JSPS バンコク研究連絡センターが共催したものです。

本セミナーでは、タイの国家的なプロジェクトである 2 兆バーツのインフラ投資について、タイ国内外の事例を踏まえた上で、官民両サイドの視点でも講演が行われたものであり、Dr. Malee Uabharadorn 同窓会理事が実行委員長を担当しました。

【右から挨拶する Busaba 会長、Malee 理事、Thibodee Harnprasert 氏】

Prof. Dr. Bussaba Yongsmith JSPS タイ同窓会会長及び Dr. Soothiporn Chittmittrapap NRCT 事務総長の挨拶の後、タイ国外からの招へい講演者として、世界銀行北京事務所の Dr. Zhi Liu、アジア開発銀行の Mr. Jami Leather 氏、また東京大学の加藤浩徳准教授による高速鉄道導入による中国、日本、世界銀行の事例紹介がありました。その後キングモンクット工科大学トンブリの Dr. Pongchai Athikomrattanakul 助教、Institute of Industrial Energy, Federation of Thai Industries の Thibodee Harnprasert 氏によるタイの研究者及び起業家・投資家の視点からインフラ整備についての講演が行われました。

タイの 2 兆バーツのインフラ投資については、まだまだ実施方法に対しては議論の余地があり、今回のセミナーでも参加者と講演者の間で多くの意見交換が行われました。この計画をいかに持続可能な社会経済成長につなげることが出来るか、本セミナーを通じて参加者が学ぶことが出来ればと考えています。

■ドゥアン・プラティープ財団（DPF）を訪問 （8月26日）

JSPS-NRCT セミナーの講演者である稲葉准教授と佐藤准教授とともにバンコク市内クロントイ地区にあるドゥアン・プラティープ財団を訪問しました。

ドゥアン・プラティープ財団は、1978 年にプラティープ・ウンソンタム・秦先生によって設立されました。プラティープ先生は、1952 年にクロントイ・スラムに生まれ、クロントイ・スラムにおける「一日一バーツ学校」などの取り組みが認められ、1978 年 8 月 31 日、アジアのノーベル賞といわれる「ラモン・マグサイサイ賞」（社会福祉部門）を受賞 しました。その時の奨励金2万ドルを基金として財団は設立されました。

【左から佐藤准教授、プラティープ先生、副センター長、稲葉准教授】

当財団は、教育・健康・社会福祉・人材育成・人命・財産の保護対策の 5 つの分野で 22 のプロジェクトを実施しており、「教育と知識が人生を変えることができる」ことを信じてスラム地域の子供達の将来のために活動してきました。今回の訪問では、スラム地区の子供達のために設立された幼稚園やクロントイ・スラムの訪問、大変幸運なことに、プラティープ先生から直接財団の事業紹介を受けることが出来ました。

■Thailand Research Expo 2013 で JSPS-NRCT セミナーを主催（8月25日）

NRCT との共催により、JSPS-NRCT Seminar at Research Expo 2013「Towards creation of fair, caring and sharing society -lessons learned from two-city cases in Japan-」を開催しました。2009 年以降、NRCT が主催する Thailand Research EXPO にて様々な分野の研究者を日本から招へいしてセミナーを実施しています

開会式では Prof. Dr. Soottiporn Chittmittrapap NRCT 事務総長が挨拶を行い、今回ののテーマである高齢化と低炭素社会は、タイと日本に共通した重要な課題であり、人々の生活の質に大きな影響を与えること、本セミナーで日本の事例から学ぶことは非常に有益であると述べました。

セミナーの前半は、九州大学大学院人間環境学府稲葉美由紀准教授を講演者、またタマサート大学社会行政学部の Dr. Wilaiporn Kotbungkair, Faculty of Social Administration をモデレーターに迎え、"Elder Care Issues in Japan: Community Based Empowerment Interventions"をテーマとして実施しました。

稲葉准教授の講演は、日本及び各国の高齢化社会の現状を人口ピラミッドなどの各種データ、「孤独死」の問題、また2000年に導入された介護保険制度等を説明した後、ケーススタディとして、「認知症に優しい都市」福岡県大牟田市の事例紹介を行いました。かつて炭鉱の町として栄えた大牟田市は、炭鉱が閉鎖され、高齢化が進んでいます。2012 年 10 月現在で 65 歳以上の高齢者が占める割合は 30.6%に達しており、市民、警察、コミュニティが協力して高齢者のためのネットワークを構築していること、また全ての公立学校はユネスコ・スクールに加入し、持続発展教育について学ぶ機会を提供しています。

締めくくりとして、政策レベルとして 65 歳以上の人々に対する皆保険の実施や、保険制度におけるインフォーマルケアの実施の必要性、また地域社会レベルでの、インフォーマルなネットワーク形成の必要性、権限の委譲、学校との連携が述べられました。最後に、ある認知症の祖母を持つ子供が書いた作文の紹介がありました。温かく綴られた文章は、会場の感動を誘いました。

後半は、東京都市大学環境学部佐藤真久准教授を講演者、またチュラロンコン大学教育部の Athapol Anunthavorasakul 助教をモデレーターに迎え、"Lifestyle Choice and Transformation towards Low-Carbon Societies in case of Energy Saving / Alternative Energy Choosing Activities in Kawasaki City"をテーマとして実施しました。

佐藤准教授の講演は、背景として持続可能な消費と生産について、人々のライフスタイルと産業界と住民の関係の変化、持続発展教育の変遷、様々な側面からの世界の環境問題と社会的疎外問題について述べ、方法論の紹介、またケーススタディとして、川崎市のエネルギー消費抑制および、代替エネルギーの選択について事例を紹介しました。1960 年代には工業化による公害が広がっていた川崎市では、70 年代に入ってからの市民と企業による協働により環境教育や生活の転換が実施され、現在は見違えるようになっています。

最後に、個人、機関、市民の能力開発ツールとしての、パートナーシップと連携について、市民や企業と政府を繋ぐ中間組織の役割について、また持続発展教育を通じて社会や個人の転換について述べられました。

どちらの講演についても、日本人研究者による英語の講演の間に、モデレーターによるタイ語の通訳及び要約があり、会場の理解を促すとともに、聴衆とのコミュニケーションを図ることが出来ました。

タイ国内においても、高齢化社会の進行や、エネルギー消費・エネルギー代替問題は着実に進行しているところであり、大牟田市、川崎市の日本の事例について、将来に役に立てばと考えます。

■大分大学副学長の来訪（8月27日）

藤岡利生大分大学理事・副学長（医療・研究担当）、田中充理事・副学長（国際・社会連携担当）、内田智久大分大学助教、小林裕美国際交流課長、後藤文太郎研究協力課主任が当センターを訪問されました。藤岡副学長は昨年 12 月以来のご来訪となりました。

大分県・宮崎県と企業等との連携推進されている「東九州メディカルバレー構想」については国の総合特区に指定されました。今回の来訪は構想の実施の中心となりうるバンコクにある JSPS への訪問、また事業の説明が行われました。

東九州メディカルバレー構想特区は、大分県及び宮崎県によって推進されており、東九州地域において血液や血管に関する医療を中心に医療機器産業の一層の有責を図ることにより、地域の活性化とアジアに貢献する医療産業拠点を目指すこと、また我が国全体の医療機器産業の成長と世界市場における地位の上昇に寄与することを目標としています。具体的には、1）研究開発の拠点、2）医療技術人材育成の拠点、3）血液・血管に関する医療拠点、4）医療機器産業の拠点を設置し、最終的に地域の活性化を図っています。

【左から JASSO 山本所長、センター長、田中理事、藤岡理事、内田助教、小林課長、後藤主任】

■京都大学農学研究科主催「だしイベント」に参加（8月28日）

カセサート大学で開催された京都大学農学研究科主催の「だしイベント」に参加しました。

本イベントは 2009 年から始まったもので、京都大学農学研究科がカセサート大学の協力の下実施され、農学研究科の教員による講義とともに毎年京都の有名料亭の料理人を招いて実演が行われています。今年はカセサート大学農学部及び日本語学科の学生を中心に約 60 名の参加がありました。

京都の有名料亭（一子相伝なかむら、木乃婦、直心房さいき、美山荘）の料理人によるデモンストレーションが行われ、だしを使った料理の試食を行いました。

■JASSO 主催日本留学フェアに出展（9月1日）

バンコク国際会議場にて開催された日本学生支援機構（JASSO）主催の日本留学フェアに当センターもブース出展を行いました。主催の JASSO の話によると、今回のフェアには、過去最大の日本の国公私立 81 大学や日本語学校が参加し、昨年の約 1,700 名を上回る 2,324 名の来場者がありました。

本イベントでは JASSO のオフィス共用化を契機に、今年初めて当センターとして出展したものです。

留学フェアである以上、多くの来場者が日本への留学を視野に入れておりますが、当センターとしては、日本に留学して学位を取得した先のオプションとして、共同研究や論文博士取得といった JSPS のプログラムがあることを今回の参加者に覚えていただければと考えています。一方で、中には大学院学生やポスドク、研究者の来場もあり、こう言った JSPS のプログラムに沿った来場者には、当センターのプログラムについて理解いただけたと考えています。最終的に当センターのブースには 30 名ほどの来場があり、当方の予想以上に説明が出来たと考えています。

■日本学生支援機構（JASSO）遠藤理事長の来訪（9月2日）

遠藤勝裕日本学生支援機構（JASSO）理事長、鈴木美智子留学生事業部長が当センターを来訪されました。今回は 8 月 30 日にチェンマイ、9 月 1 日にバンコクで実施された日本留学フェアに伴い、オフィスを共用している JSPS への表敬訪問となりました。

【左から山本所長、遠藤理事長、センター長、鈴木部長】

山本剛 JASSO タイ事務所長より、日本留学フェアの来場者数の報告があり、バンコクは 2,324 名で、これは昨年度の 1,700 名から 600 名の増加となりました。チェンマイも、昨年度の 500 名から約 300 名増加して、791 名の来場があったとのことです。その他、オフィスを共用化以来、JASSO 主催の留学説明会に JSPS も参加して事業説明の実施、またタイ科学技術展には大学連携ブースの共同展示といった連携活動について紹介がありました。

当センターからも、当センターと JASSO タイ事務所の連携が本部からも好事例として高く評価されている旨を紹介し、今後も連携を継続して行く旨を報告しました。

■磯田文雄東京大学理事の来訪（9月2日）

【左から井上部長、JASSO 山本所長、磯田理事、センター長、副センター長】

東京大学　磯田文雄理事、井上睦子国際部長が当センターを訪問されました。

磯田理事は、元文部科学省高等教育局長を務められ、JSPS の事業についてもよくご存知であり、今後の当センターの活動について様々な助言をいただきました。

東京大学の学生・研究者獲得の方針として、留学フェアのような幅広い情報提供を行うと同時に、もっとターゲットを絞ってリクルーティング活動を実施することも視野に入れるべきではないかとのことでした。

■AUN/SEED-Net 事務局及び JASSO と合同で国際連携セミナーの実施（9月3日）

ASEAN 大学連合（AUN）と岡山大学が連携して実施されているスタディープログラム“Discovery, Diversity, Dynamics”の一環で、セミナー「Japan and Thailand Academic Cooperation Now and Future」を実施しました。

本セミナーは、AUN/SEED-Net 事務局の小西副チーフアドバイザーの要請で実現したものであり、岡山大学のスタディツアーの一環として JSPS からは山下センター長、JASSO からは山本タイ事務所長、AUN/SEED-Net 事務局は小西副チーフアドバイザーが、それぞれのタイでの活動を説明しました。

JSPS のセッションでは、JSPS の事業を説明するとともに、山下センター長の専門である ESD について講演が行われました。岡山県は来年 11 月に岡山大学が中心となって会議が実施される予定であり、是非関心を持って欲しいとのメッセージが伝えられました。

■元 JSPS 国際協力員の来訪（9月6日）

【左からセンター長、谷垣さん、鶴岡さん、副センター長】

元 JSPS 国際協力員で文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室海外協力政策係（所属は名古屋大学）の鶴岡泰二郎係員、京都大学医学・病院構内共通事務部経理研究協力課国際掛の谷垣幸太一般職員が当センターを来訪されました。

二人は 2010 年に日本学術振興会ストックホルム研究連絡センター及びワシントン研究連絡センターに国際協力員として勤務しました。他の海外センターの業務については、意見交換をする機会が少ないため、貴重な情報が得られ、今後の当センターの運営にも役立てていく所存です。

■山口大学職員の来訪（9月10日）

山口大学産学連携課の芝﨑理恵職員が当センターを来訪されました。今回は山口大学の SD 研修の一環として 6 日間の予定でタイを訪問し、主に学術交流協定校であるチェンマイ大学の訪問の他、当センターを訪問し様々な意見交換を実施しました。

当日は、日本学生支援機構（JASSO）の業務説明の後、当センターの説明を実施しました。山口大学では地元の企業と連携し、タイから博士課程学生を受け入れたことがあるとのことで、ニーズがあれば利用してもらうよう JSPS の論文博士支援制度を紹介しました。また、JSPS 訪問の後、大阪大学バンコク教育研究センターも訪問しました。

【左から副センター長、芝﨑さん、センター長、JASSO 山本所長、阪大関センター長】

■ドゥアン・プラティープ財団（DPF）を再訪問（9月11日）

【左からプラティープ先生、ポーンティップさん、センター長、副センター長】

今年 8 月 26 日に副センター長が訪問した際に提案したドゥアン・プラティープ財団の支援を受けて今年 7 月にクロントイ・スラム出身で初めて博士号を取得したポーンティップ・パーンインさんへの JSPS 外国人特別員研究員制度の説明のため、今回は再度の訪問となりました。今回の訪問で、ポーンティップさん及びプラティープ先生に JSPS 外国人特別研究員制度の説明を行ったところ、申請を検討したいとのことで、申請に関するアドバイスを行いました。

また、センター長とプラティープ先生は 24 年ぶりの再会となりました。1986 年、当時山下センター長が働いていた日本ユネスコ協会連盟が、国連の国際識字年（1990 年）に向けて「世界寺子屋運動」を開始するための世界フォーラムを東京、青森で開催し、そのときの参加者の一人がプラティープ先生だったとのことです。

■バングラデシュでの事業説明会及び JSPS バングラデシュ同窓会理事会の実施（9月14日）

バングラデシュ・ダッカ市内にて、JSPS 事業説明会を実施しました。事業説明会は JSPS バンコクセンターとJSPS バングラデシュ同窓会の共催で行われ、同窓会理事から 15 名、その他 29 名の参加がありました。今回は、主に JSPS バングラデシュ同窓会に所属しない研究者に対して声をかけ、JSPS を知らない研究者に対して JSPS 事業について広く周知できるようにしました。

事業説明会では、Dr. Nur Ahamed Khondaker 事務局長がチェアを務め、Prof. Dr. M. Afzal Hossain バングラデシュ同窓会長による挨拶の後、山下邦明センター長より JSPS の概要及び事業の紹介を行いました。引き続き、外国人招へい研究者（長期）事業で日本に滞在した Bangabandhu Sheikh Mujibur Rahman Agricultural University (BSMRAU)の Dr. M Amzad Hossain 教授が講演を行い、プログラムの詳細、具体的な申請書の提出タイミング、実際の開始時期、手続きの進め方、JSPS 及び大学からの支援内容、また学会、セミナー、シンポジウム等への参加、フィールドワーク等、日本における活動、成果としての論文発表等、細かい情報提供を行いました。講演の最後に、10 ヶ月のプログラムは共同研究を実施するのに十分な機関であり、日本の研究者、学生の知己を得、教育研究システム理解する良い機会であり、是非 JSPS の事業に申請して欲しいと締めくくりました。

引き続き実施されたバングラデシュ同窓会理事会では、まずは今年度のバングラデシュ同窓会総会及びシンポジウムについて議論が行われ、バングラデシュ総選挙の状況を考慮して、2014 年 3 月 1 日(土曜日)に実施することとなりました。日本からの講演者は 3 名の予定で、まずはバングラデシュ側で招へいしたい研究者を 3 名 10 月末までにバンコクセンターに知らせることとなりました。シンポジウムが 3 月にずれ込んだことで、Bridge プログラムの選考会もシンポジウムと併せて実施する予定です。

■チュラロンコン大学理学部 Thanawat Jarupongsakul 教授の来訪（9月17日）

22013 年 9 月 17 日、チュラロンコン大学理学部の Thanawat Jarupongsakul 教授、マヒドン大学理学部の Tanakorn Osotchan 助教が当センターを訪問されました。

Thanawat 教授と Tnakorn 助教は JSPS のカウンターパートであるタイ学術会議（NRCT）の海岸浸食対策に関する作業部会のメンバーであり、日本でのカウンターパート及び訪問先について、当センターに相談に訪れたものです。

Tanakorn 助教からは高校レベルの理科教育について関心があるとのことで、当センターからスーパーサイエンススクールの訪問について提案し、本件について当センターからも出来るだけの協力をすることとなりました。

【左から Tanakorn 助教、Thanawat 教授、センター長】

■立教大学阿部治教授の来訪（9月17日）

マダガスカルでの生物多様性の調査研究の帰途、当センターにお立ち寄り頂きました。阿部教授は持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議（ESD-J）の共同代表理事を務められており、山下センター長が自身の研究分野である ESD やユネスコ・スクールに深く関わることになったきっかけも、2009 年ドイツのボンで開催された ESD 国連の 10 年の中間年評価会議にオブザーバーで参加した折、日本代表だった阿部先生と知り合われたことによるとのことです。

当センターではこれまで何度か ESD をテーマとしたセミナーを実施しており、今回の訪問で阿部先生のマダガスカルでの調査内容について貴重な話を伺うことが出来ました。

■豊橋技術科学大学、長岡技術科大学、NSTDA 合同シンポジウムに参加（9月23日）

バンコク郊外 Thailand Science Park 内にあるタイ国立電子コンピューター技術研究センター（NECTEC）にて、NSTDA-TUT-NUT Joint Symposium on Future Collaboration が開催され、副センター長が出席しました。

本シンポジウムは、豊橋技術科学大学、長岡技術科大学、タイ国立科学技術開発庁（NSTDA）の今後の連携のため、それぞれの機関の研究者が参加して実施されたものです。23 日の午前中に、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、NASDA 傘下の研究所であるタイ国立金属材料技術研究センター（MTEC）、タイ国立電子コンピューター技術研究センター（NECTEC）の事業紹介を実施し、午後は、情報工学、電子工学、材料工学の分野に分かれて専門的なセッションが行われました。

今回のシンポジウムについては、2013 年 5 月 13 日に豊橋技術科学大学の角田副学長が当センターを訪問され、その時の意見交換がきっかけで招待いただいたものであり、日本の大学とタイの研究開発機関が合同で実施しているシンポジウムに招へいいただいたことで、タイの研究開発の現状を知る良い機会となりました。

■日本政府・タイ政府奨学金留学生の壮行会に出席（9月23日）

10 月に日本に出発する予定の日本政府とタイ政府奨学金留学生の壮行会が在タイ日本大使公邸にて開催され、当センタースタッフが出席しました。

今回は、研究留学生 3 名、日本語・日本文化研修留学生 12 名、教員研修留学生 7 名、ヤングリーダーズプログラム 3 名、タイ政府奨学金留学生 5 名（ODOS2 名、その他 3 名）が出席し、佐藤重和在タイ日本国特命全権大使より証書と記念品を授与されました。

本壮行会及び帰国留学生歓迎会は、毎年在タイ日本大使館主催で実施されており、日本にこれから留学する、また留学から帰ってきた学生と各関係機関とのネットワーク形成に繋がっています。

コラム#1

ダイスケさんのダイ好きアジア

密林のベンメリア

子供の頃に読んだ本で憧れていたアンコール・ワットを初めて訪問したのは今から10年以上前のことだった。当時のカンボジアは内戦が終わって平和が広がっていたけれども、空港からシェムリアップの街(アンコール遺跡群の観光拠点)への道は電気一つなく、夜道をバイクタクシーで走ってホテルに着いたのがとても印象的だった。ホテルの周りも電気などなく、暗い夜道を小走りで逃げるように食事に行ったのだった。

月日が流れ、シェムリアップの街は大きくなり、ネオン街には観光客があふれている。昔泊まった川沿いのホテルも建て替えられていた。古き良き田舎の観光地の姿はもうそこには無い。それでもアンコール遺跡はいつまで経っても変わらない。観光客が増えても、変わらぬ姿でそびえ立ち続けている。

【右は 2002 年当時のベンメリア。通常のアンコール遺跡とは違い、バイクタクシーで2時間かけて見学に行った。遺跡の整備は進んだが、修復には程遠い】

ベンメリアという遺跡がある。アンコール･ワットから 40km 程離れたこの遺跡は、10 年前は知る人ぞ知る遺跡であり、ポル･ポト派が設置した地雷も完全には撤去されておらず、バイクタクシーでしか行けない上に、遺跡の一部に入ることが出来たのみだったが、今は道が整備され、大型の観光バスも容易に来ることが出来る。そして遺跡は大分整備されていた。それでもなお、未整備の部分は多く、「廃墟」と呼ぶにふさわしい。

多くの観光客が落とす外貨は国の経済発展と遺跡の保存に貢献し、アンコール遺跡群の整備も見違えるように進んだ。このベンメリアも、10 年後にはどうなっているのだろうか。

JSPS バンコク研究連絡センター学術情報
(2013 年7月～9 月)

■タイにおける優れた研究者の必要性

タイにおける教育の質を向上させ、競争力を強化するためには、研究能力が必要である。しかし、優れた研究者が不足している。

タイ高等教育局事務次長 Kamjorn Tatiyakavee 准教授は次のように述べている。「博士課程を修了した者の中で、科学分野を習得しているのはそれほど多くはいない。より多数に自然科学及び社会科学分野を専攻してもらえるようタイ高等教育局は奨励している。博士課程学生は全ての分野で増加しているが、研究に直結した分野において、より多くの研究者を必要としている」。

高学位取得者の創出は国家的課題の一部とはなっていないため、高学位取得者は通常大学の教員となることが多いが、企業や他の機関を選択する者もいる。

また、需要の低い分野での博士号取得者の無計画な増員の危険性もあり、研究者が困難に陥る原因ともなっている。

チュラロンコン大学 Amorn Petsom 准教授は以下のように述べた。「タイでは科学技術、教育分野での博士号取得者が不足している。タイの科学技術分野の競争力を向上させるために、これらの分野の博士号取得者が必要である。チュラロンコン大学では学術機関で勤務できる研究能力を持った博士号取得者を必要としており、活動分野を拡大し、競争力を維持するためには、優秀な研究者を雇用しなければならない。」

チュラロンコン大学は、1,000 名の博士課程プログラムを開講したが、半分しか埋まっていないとのことであり、入学目標数を達成することは難しい。チュラロンコン大学は修士課程及び博士課程志願者の落ち込みが見られ、理由を調査しているとのことである。

他の研究者の不足理由は新たに提供される多くのプログラムの教育の質についてである。これらのプログラムは内容が未確定なまま提供されている。

大学院生数をコントロールする方法は無い。学費が支払われたら、各大学は新しいプログラムの開設とその質保証を命令するのみであり、高等教育局は権限が中央にないため教育の質を管理することが不可能である。そのため、高等教育局は博士課程プログラムの質について調査する権限を取り戻すために法律を規定する必要がある。

科学分野での博士号取得者は 1998 年から 2008 年にかけて 40%も増加した、34,000 名の修了者が OECD 加盟国内で存在する。

中国における博士号取得者数は非常に高くなっており、2009 年には 5 万人もの博士号取得者を輩出し、その数は他国を圧倒している。ただ、問題は多くの卒業生の質の低さにある。一方で、シンガポールやインドは博士号取得者の創出に投資している。

(7 月 29 日 Nation 紙)

■Thailand Research EXPO2013 において、タイ国内での革新的な研究成果が発表される

タイ国学術会議（NRCT）主催により 8 回目の開催が実施される Thailand Research EXPO がバンコク国際会議場で 8 月 23 日から 27 日まで 5 日間に渡って実施され、会議やセミナーでは、タイ国内の革新的なアイデアを反映し、持続可能な成長をもたらすことの出来る研究成果について発表される。

今回の Research Expo はテーマを「生活、経済と社会の持続可能な開発のための研究」とし、タイ国王及び王族による研究を特集するとともに、数多くの公的機関・民間企業からの将来的に付加価値商品の開発に繋がる優れた研究が紹介される。

目玉としては、自閉症の子供のためのロボット、Warangkun の米で作られた止血パッド、喘息の吸入器といった、第 41 回ジュネーブ国際発明展の入賞作品が展示される。

(8 月 2 日 Thai Rat 紙)

■タイの大学の監督権限を高等教育局に付与するために大学法を策定すべき

タイ高等教育局(OHEC)事務次長の Kamchon Tatiyakawee 准教授は下記のように述べた。

「近年、教員養成大学や職業訓練大学だけでなく公私立大学は多くの問題を抱えている。多くのタイの大学では内部衝突があり、高等教育局も問題を認識しているものの未だに解決に至っていない。高等教育局が問題解決にあたることが出来ないのは、各大学の理事会が最高権力をもった独自の規則を有しているからある。問題を解決するた

めに、教育大臣は高等教育に関する法令の制定のための諮問会議を開催し、OHEC に将来に渡って問題を解決させるようにすることとした。OHCE がたとえ問題を直接解決することが無理としても、少なくとも全ての大学に対する監督権限を持たせるようにするものである。

Chaturon Chaisang タイ教育大臣は、OHEC は教育省の権限である大学の理事や学長の任命を除き、大学内の争いに介入できなかったが今後は OHEC が教育省に問題を持ち込むことが出来るようにすると述べた。それにも関わらず、決議案は未だに公式な承認を得ていない状況である。

(8 月 7 日 タイ教育省)

■タイ政府により研究開発に予算投入の必要性

Yingluck Shinawatra タイ首相はタイ・イノベーションフォーラムの開会式にて下記のように述べた。

「政府は教育省、農業省、科学技術省傘下の 7 つの研究セクターを再編成する。それにより、重複部分を減らし、将来の予算の再編成を可能とすることが期待される。首相は研究コンテストを実施し、研究者からアイデアを提出させ、商業化及び経済的価値の創造に貢献することを期待している。」

インラック首相はまた大学、特に地方大学に対して多くの資金を提供することを約束した。これによって、新たな研究を創出し、地方産の材料の価値を高めることが可能となる。また人材や実験設備についての支援や、企業や小規模事業の推進のための支援についても準備しているとのことである。

タイは官民の研究開発にかける割合だけで無く、研究者や技術者の数が少ないことでもよく知られている。研究者や技術者の数が総人口の 1000 分の 1 であることに対し、1960 年以降研究開発には僅か 0.2%しか投資してこなかった。

元科学技術大臣で、National Centre for Genetic Engineering and Biotechnology (BIOTEC) 主任研究者である Yongyuth Yuthavong 教授は、タイの科学技術開発の弱点は貧弱な研究資金が理由にあるとした。タイの GDP に対する研究開発の予算は世界の中でも一番低く、結果として、多くの発展途上国は 100 万人に対して 5,000 人の研究者がいるのに対して、タイは 600 名しかいない状況である。

首相はしばしば政府は GDP の 1%相当を科学技術開発に利用すると繰り返し述べているが、実際の結果は伴っていない。

タイは第十一次社会経済発展計画を立案し、2015 年までに人口 100 万人あたりの研究者数を 1,500 名まで引き上げることを目標としているが、その兆候は見られてない。本計画では、研究開発の予算を GDP の 1 パーセントまで引き上げることが提言されている。

しかし、2014 年度の予算では、政府は科学技術の予算に 210.32 バーツを配分する予定であることを明らかにした。もし承認されれば、この額は GDP の 0.8%に相当する。

Yongyuth Yuthavong 教授は、他の国々と比較してタイはまだ先の長い道程にあり、明確な政策、強固な指導力、正しい思考が必要であると述べた。

(8 月 20 日 Nation 紙)

■設立 10 周年を迎えたタイ国立ナノテクノロジーセンターの本格的始動

タイ国立ナノテクノロジーセンター (NANOTEC) は、タイ国内の農業からエネルギーまで幅広い産業に対して大きな影響を与える研究成果を提供している。

例えば、NANOTEC から生み出されたスマートソイルや化学肥料については、来年初頭には農家で利用することが可能となる予定である。農家では、これらを利用することによって、肥料代を節約することが可能となり、結果として生産コスト削減に繋がるだろう。タイ全体では毎年 1,000 億バーツに及ぶ肥料を使用している。

スマートソイルはホテイアオイから作られており、これはホテイアオイが水吸収性だけでなく栄養物吸収性もあることから主要な生物材料となった。スマートソイルを使うことによって、植物の根の成長が促進される。スマートソイルはまた各地にある灌漑問題の解決にも繋がる。

NANOTEC は 2003 年に設立され、10 年が経過した。Sirirurg Songsivilai 所長は自信を持って以下のように述べる。「過去 10 年、NANOTEC は研究者や専門家を含むリソースの準備に費やしてきた。これからの 10 年は過去 10 年を礎に大きな影響力のある大規模事業を実施し、タイの生活の質向上に貢献する。」

タイ科学技術大臣顧問の Nirut Kunnawat 氏は以下のように述べた。「NANOTEC は研究成果を通じてタイの製品の競争力を向上させることが求められている。多くの大学、職業訓練大学や民間企業が NANOTEC と合同でナノテクノロジーによる解決策を研究している。例えば、ナノテクノロジーによる虫除けの製品の開発も可能である。」

タイ科学技術省は NANOTEC のミッションである国家に対して新しい技術革新をもたらすことについて支援を実施している。政府は、NANOTEC の研究成果が目に見える結果をもたらすこと、また人々の生活向上に関連していることを保証している。

これまで NANOTEC は、研究者を各地域に派遣して、そのニーズを汲み取ることにより新しいアプローチを得ることに成功してきた。NANOTEC に所属する研究者は、各地の住民と直接コンタクトすることにより、村民が直面している問題の所在を知り、問題解決策を発見することに取り組んできた。この新しい取り組みは、研究者は他者との対話を行わないという世間一般の認識を払拭し、NANOTEC に対して新しい機会をもたらす結果にもなった。

NANOTEC は 10 の最重要課題を実施しており、それぞれに 20 名以上の様々な分野の研究者が従事している。それぞれの研究者は NANOTEC 所属であったり大学であったりする。研究期間は 3 年だが、1 年以内に成果が出た研究もある。

NANOTEC は現在タイ国民のための研究を重視している。また研究者の創出に努力している。事実、各産業は多くの研究者を必要としており、優秀な研究者を採用し、その専門性を開発する予定である。多くの研究者が国家に対して大きな貢献することが可能となるだろう。

(8 月 29 日　Nation 紙)

■ASEAN 共同体に向けたカウンセリング教員の 10 の資格

カセサート大学で開催されたカウンセリング教員のためのセミナー「ASEAN における大学入試の将来について」において Siree Chaisere カセサート大学教務担当副学長は次のように述べた。

「来たるべき ASEAN 共同体のために、多くの ASEAN の大学は準備をしている。大学は学生のためにも準備をするべきである。特に英語は、タイの学生の知識、技術、芸術文化だけでなく全ての世界に視野を広げるだろう。」

タイ大学学長協会(UPAT)の事務局長である Sasithorn Ahingsako によると、UPAT は ASEAN 共同体に対して様々な方法で準備している。例えば、新しい学期や入学時期、入学試験の変更である。
カウンセリング教員に必要な資質は、下記の 10 が挙げられる。

1. 整備された業務計画と優れた洞察力
2. 特定の専門性と多様な知識、生涯教育技術
3. 学生の創造的思考を促進させる能力
4. 個別の学生のスキルを理解する能力
5. しっかりした倫理感、誠実さ、高いモラル、鋭い社会性
6. 社会適応能力
7. 学生指導能力
8. 体系的な評価能力
9. 学生に機会の認識と活用を促進する能力
10. 理論を実践する能力

(8 月 30 日　タイ教育省)

■ASEAN 共同体に向けたタイの教育

2013 年 8 月 31 日、Chaturon Chaisang タイ教育大臣は「ASEAN 共同体に向けたタイの教育」について講演を行った。

来たるべき ASEAN 共同体について、特にタイでは多くの人々が関心を持っている。2015 年 12 月 31 日をもって全ての ASEAN 諸国が ASEAN 共同体の一員となるべく、多くのプロジェクトが実施されている。

教育に関しては、多くの人々がタイ人は英語と中国語についてより堪能になるべきであると考えている。しかし教育大臣は、ASEAN 共同体のメンバーになる以前に、タイの人々は英語能力を開発する必要があると考えている。なぜなら、英語、数学、一般科学、読解力と言った主要科目が他の国々より低いと報告されているためである。

それと同時に、タイの人々は世界二位の経済大国である中国語を、またその上でマレー語とともに、ベトナム語、ミャンマー語、ラオス語やカンボジア語も併せて学習するべきである。将来的に、これらの近隣諸国とビジネスをする機会が増加することが予想されるからである。

結果として、タイの人々に ASEAN の文化、伝統、思考法の理解のために、教育は極めて重要である。さらには、学生に異文化理解能力を持つよう奨励し、それによって ASEAN 地域の問題について注意を傾けることが可能となる。

教育大臣は、具体的に下記の項目が準備のために必要であると述べた。

・ASEAN の教育のハブとなること。タイは ASEAN の学生のトレンドとなることを考えるべきである。世界のリーディング学術機関を設置し、周辺諸国からの学生をリクルートすべきである。

・全ての段階、特に職業訓練教育について人材開発及び学生の質の改善を推進すること。他国との連携について、具体的にはタイにおける国際標準労働者の開発について、大いに強化するべきである。現在国際基準を達成しているタイ労働者は 50 万人であるが、もし国際基準を一層達成できれば、タイの生産部門は向上するだろう。

・他の国々と競争するために、タイは一層創造的になり、他の ASEAN 諸国が実施しているように創意工夫するべきである。タイ教育大臣は、タイの教育制度を改革し、タイの学生はより分析的、批評的に問題解決を自発的に行えるようにするべきと考えている。また教員能力の開発も教育評価及びカリキュラム改善と同時に実施する。

以上、タイは他国について一層理解するとともに、タイ国民の能力を向上させるべきである。教育改革は一つの機関だけで実施するのではなく、全ての関係機関の協力が必要である。もし全員が自分の職責を全うすれば、タイは ASEAN 共同体の一員となったときに他の国々と十分に競合することが可能であるだろう。

（9 月 4 日　タイ教育省）

■QS 世界ランキングでタイの大学の順位下落

2013 年 9 月 10 日、最新版の QS 世界大学ランキングが発表された。今年はこれまでで最も総合的なランキングとなり、100 以上の大学が追加され、合計 76 ヶ国 800 大学が対象となった。しかし、これまでにランキングに入った 8 つのタイの大学は昨年よりも順位を落とす結果となった。

本ランキングは 62,094 名の学術機関関係者及び 27,957 名の企業の回答を基本に作成されており、大学ランキング調査としては世界最大のものとなった。

上位 20 位の内、米国の大学が 11 校を占めたが、財政危機以降、その独占状態は弱体化しており、83 の米国の大学が上位 400 校、64 校が 2007/8 よりも順位を落とした。400 位以内にランクされた 43 の米国公立大学は、政府の継続した運営費削減により 2007/8 以降平均 20 位ランクを落としている。

一方で、400 位以内にランクインしているアジアの 62 大学の内 70%が 2007 年よりも順位を上げている。しかし、トップ 20 に入る大学はまだ出ていない。

タイの大学は、トップ 300 に 2 大学が残った。チュラロンコン大学は 239 位で、2012 年度の 201 位から順位を落としている。マヒドン大学は 283 位と、昨年の 256 位から順位を落としている。

QS の担当者によると、ランキングが示すように、タイから 2 大学がトップ 300 にランクインしたとはいえタイの大学のパフォーマンスは数値が示すとおり落ちており、教育改革を推進するための政府の政策を実施するのに良いタイミングであるのでないかとのことである。

（9 月 10 日　Nation 紙）

■タイ高等教育局、学生の言語能力開発のためにタイ 7 大学と連携

タイ高等教育局顧問である ChawaneeThongroj 准教授は、ASEAN 共同体参加に備えた学生、教員そして教育関係職員の運用方針について明らかにした。
これらの人材の競争力と潜在能力を開発し、ASEAN 労働市場への需要を後押しすることが必要である。高等教育局は、タイの 7 大学と連携し、英語、中国語、そして ASEAN 言語の開発を実施する。連携する大学と言語は下記の通りである。

1. コンケン大学・ラオス語
2. ウボンラチャタニ大学・ベトナム語
3. ナレスワン大学・ビルマ語
4. マハーサーラカム大学・カンボジア語
5. ヤラ・イスラーム大学・マレー語
6. メーファールアン大学・中国語
7. 国立開発行政大学院・英語

これらの協力は 2015 年の ASEAN 共同体参加の目的に沿うものである。学生、教員、教育関係職員はそれぞれ個人の能力を開発し、特に国際舞台また地域単位での労働市場に見合う外国語及び他のスキルアップを図り、ASEAN 共同体に備え競争レベルを向上させることを目標とする。

（9 月 25 日　タイ教育省）

日本学術振興会バンコク研究連絡センターの位置

日本学術振興会バンコク研究連絡センター/JSPS Bangkok　Office

1016/1, 10th floor, Serm-mit Tower, 159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand

tel +66-2-661-6533　fax +66-2-661-6535

Website: http://jsps-th.org (現在メンテナンス中)

Email: jspsbkk@jsps-th.org